

## ASEFの概要

- ASEF (Active Shipbuilding Experts' Federation) は、**造船業界の意見をIMOに発信することを目的**として2015年11月に設立された団体。
- **世界の新造船建造量の90%以上を占める10ヶ国\***の造船工業会（造船の業界団体）等が参加。

※日本（（一社）日本造船工業会）、中国、韓国、インド、インドネシア、マレーシア、タイ、スリランカ、ベトナム、トルコ

- **本部・会長・事務局長は、日韓中持ち回り（1年交代）**。2016年10月までは日本が、現在は韓国が務めている。



## ASEFのIMOオブザーバーステータス申請について

- 設立目的（造船業界の意見をIMOに発信）達成のため、ASEFはIMOオブザーバーステータス取得に向け、今年3月29日にIMO事務局に申請書を提出。ASEF設立を主導してきた日本造船工業会（造工）事務局が、申請に係る実質的な作業を担当。

### (1)取得の意義

世界の新造船建造量の大半を占める**日本、韓国及び中国の造船業界の意見を、直接IMOに発信することが可能**。

### (2)取得に向けたASEFの取組み

- ✓ ASEF事務局長（韓国造工事務局長）から、IMO理事国（40ヶ国）に支持要請を発出。
- ✓ IMOオブザーバーステータスを有する他の団体（IACS、ICS、INTERCARGO等）に対し、ASEFについて説明。
- ✓ IMO理事国が出席する第98回海上安全委員会(MSC98)、第71回海洋環境保護委員会(MEPC71)等の機会に、各国政府に対し、ASEFについて説明。また、同会合期間中に、プレゼン実施や朝食会の主催を通じてASEFをPR。

### (3)日本政府の対応

- ✓ IMO理事国が出席する第67回技術協力委員会（TCC67）及び第118回理事会（C118）の機会に、日本政府も積極的にASEFの根回しをサポート（賛同が得られない国、各国からの問い合わせ等に対する説明への協力や、理事会中、傘下の審査グループへの日本からの出席等）。

## IMOオブザーバステータス

- ✓ 国際海事機関（IMO）オブザーバステータスは、IMOが**国際団体（業界団体、NGO等）に付与する地位**。
- ✓ IMOの**会合への出席・会合での発言・会合への提案文書の提出**といった権利を持つ（保有のメリット）。
- ✓ 加盟国政府と異なり、投票権をもたない。

## IMOオブザーバステータスの現況

- ✓ 現在、77団体がオブザーバステータスを保有。①**海事関係業界団体**、②**環境関係団体**、③**学術研究団体** に分類可能

主な海事関係業界団体	
海運	ICS、INTERTANKO、INTERCARGO、CLIA、OCIMF、BIMCO 等
造船	CESA (Community of European Shipyards' Associations) SYBAss (Superyacht Builders Association) ※2団体のみ
船員	ITF (International Transport Workers' Association)
船級協会	IACS
学会	RINA (Royal Institute of Naval Architects)、IMarEST



## IMOオブザーバステータス取得の手続き

- ✓ IMO事務局に申請した後、IMO理事会・総会の承認を得ることで取得可能。
- ✓ 総会では、これまで理事会の決定をそのまま承認することが大半であり、**実質的に理事会での審査が鍵**となる。
- ✓ 近年の審査状況：2015年の総会で、2機関のみ承認。（2012~2015年の4年間に申請のあった13機関中）

